

2024 年度



東邦大学医療センター大森病院  
麻酔科専門研修プログラム

# 東邦大学医療センター大森病院麻酔科専門研修プログラム

## 1. 専門医制度の理念と専門医の使命

### ①麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

### ②麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能ないように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

## 2. 専門研修プログラムの概要と特徴

- 4年間を通じてリサーチマインドを持って日々の臨床を行い、臨床研究、基礎研究に発展させるプロセスを学ぶ。
- 周術期管理センターや毎朝の症例カンファレンスで、患者のリスク評価ができる医師を養成する。
- 本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。
- 麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

## 3. 専門研修プログラムの運営方針

- 1年目前半に多様な手術症例を経験し、基礎力を身につける。

- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、小児診療を中心に学びたい者へのローテーション、心臓血管外科麻酔を学びたい者へのローテーション、集中治療を中心に学びたい者へのローテーションなど、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションを考慮する。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。
- 研修のうち6ヶ月は、関連研修施設で集中治療領域の研修を行う。

#### 研修実施計画例

	A. 標準 (バランス型)	B. 標準+ 集中治療 型	C. 標準+ ペイン型	D. 標準+ 小児・産 科麻酔型	E. 標準+ 研究型	F. 標準 +自由選 択型
初年度 前期	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院
初年度 後期	連携病院 自由選択	連携病院 自由選択	連携病院 自由選択	連携病院 自由選択	連携病院 自由選択	連携病院 自由選択
2年度 前期	連携病院 自由選択	連携病院 自由選択	連携病院 自由選択	連携病院 自由選択	連携病院 自由選択	連携病院 自由選択
2年度 後期	連携病院 自由選択	連携病院 自由選択	連携病院 自由選択	連携病院 自由選択	連携病院 自由選択	連携病院 自由選択
3年度 前期	連携病院 自由選択	連携病院 集中治療	連携病院 ペイン	連携病院 小児産科 麻酔	東邦大学 大森病院	連携病院 自由選択

3年度 後期	連携病院 自由選択	連携病院 集中治療	連携病院 ペイン	連携病院 小児産科 麻酔	東邦大学 大森病院	連携病院 自由選択
4年度 前期	東邦大学 大森病院	連携病院 集中治療	連携病院 ペイン	連携病院 小児産科 麻酔	東邦大学 大森病院	連携病院 自由選択
4年度 後期	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院 ペイン	東邦大学 大森病院 小児産科 麻酔	東邦大学 大森病院	東邦大学 大森病院

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	ICU	手術室	手術室	外勤	手術室	休み	休み
午後	ICU	術前外来	手術室	外勤	手術室	休み	休み
オンコール			○				

#### 4. 研修施設の指導体制

##### ① 専門研修基幹施設

東邦大学医療センター大森病院（以下、東邦大学大森本院）

研修プログラム統括責任者：武田吉正

専門研修指導医：

武田 吉正	(区域麻酔・集中治療)
里元 麻衣子	(手術麻酔)
川瀬 宏和	(小児心臓麻酔・集中治療)
谷口 新	(産科麻酔、ペインクリニック)
サムナ ロバート	(心臓血管麻酔)
中込 尚子	(心臓血管麻酔)
武藤 理香	(小児麻酔)
岩本 津和	(手術麻酔・教育)
阿久津 麗香	(手術麻酔・心臓血管麻酔)
岸田 浩一	(手術麻酔・心臓血管麻酔)
小野寺 勇人	(手術麻酔・心臓血管麻酔)
高野 真美	(手術麻酔・心臓血管麻酔)
久米 克佳	(手術麻酔・心臓血管麻酔)
土肥 泰明	(手術麻酔・心臓血管麻酔)

専門医：

丹治 紗百合	(手術麻酔・心臓血管麻酔)
坂本 美岬	(手術麻酔・区域麻酔)

認定病院番号：71

麻酔科管理症例数：5595症例

特徴：

術前から術後のICU管理までを担当し、周術期の全身管理を修得する。手術麻酔、集中治療、ペインクリニック、無痛分娩、周術期センターを幅広く研修できる。区域麻酔では運動枝を温存し知覚をブロックするawake hand surgeryなど様々なブロックを実施。臨床解剖を行っており高難度な神経ブロックも確実に修得可能である。

## ② 専門研修連携施設 A

### 東邦大学医療センター大橋病院

研修プログラム統括責任者：小竹良文

専門研修指導医：

小竹良文 (麻酔、集中治療)

豊田大介 (麻酔)

牧裕一 (麻酔、集中治療)

下井晶子 (麻酔)

小野寺潤 (麻酔)

専門医：

川原小百合 (麻酔)

両角幸平 (麻酔)

阿部理沙 (麻酔)

坂本優安 (麻酔)

木下純貴 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：193

麻酔科管理症例数 2878症例

特徴：

周術期センターが設置されており、麻酔科医、薬剤師、看護師、歯科衛生士による総合的な評価を行い、術前から術後まで安全で質の高い管理が可能となっている。ペインクリニックは麻酔科発足以来、慢性疼痛の診断と治療を全国に先駆け教室のテーマとしている。また、集中治療、呼吸ケアチームでも麻酔科が中心となり活動している。

### 東邦大学医療センター佐倉病院

研修プログラム統括責任者：北村享之

専門研修指導医：

北村享之 (臨床麻酔)

甲田賢一郎 (臨床麻酔)

佐藤可奈子 (臨床麻酔・ペインクリニック)

鶴澤将 (臨床麻酔)

認定病院番号：610

麻酔科管理症例数 3179症例

特徴：

- ・ 印旛地区における中心医療施設の一つ

地区の中心医療施設の一つで、経験必要症例は全て当院で経験が可能である。

- ・ 周術期糖代謝管理

近年、周術期の適切な血糖値管理が術後アウトカムに寄与することが示唆されており、当院では心臓血管外科手術の周術期に人工膵臓を用いた血糖値管理をテーマとした前向き研究を心臓血管外科と合同で行っている。

- ・ 高度肥満外科手術

高度肥満患者に対する先進医療（腹腔鏡下胃スリーブバイパス術）を行っており、高度肥満患者の全身麻酔管理を経験できる。

③ 専門研修連携施設B

恩賜財団済生会横浜市東部病院 集中治療科

研修プログラム統括責任者：佐藤智行

専門研修指導医：

佐藤智行	(麻酔, 集中治療)
谷口英喜	(周術期管理, 麻酔)
高橋宏行	(麻酔, 集中治療)
上田朝美	(麻酔, 集中治療)
斎藤郁恵	(麻酔)
秋山容平	(麻酔, 心臓麻酔)
富田真晴	(麻酔)
佐藤貴紀	(麻酔)
鎌田高彰	(麻酔, 周術期管理)
玉井謙次	(麻酔, 集中治療)
竹郷笑子	(麻酔, 集中治療)
浅見優	(麻酔, 集中治療)

専門医：

三浦梢	(麻酔)
中山博介	(麻酔)
竹田溪輔	(麻酔)
田中敬大	(麻酔, 区域麻酔)
佐藤雄生	(麻酔, 区域麻酔)
池田敏明	(麻酔)
倉田早織	(麻酔, 救急)
矢野喜一	(麻酔, 集中治療)

認定病院番号 1315

麻酔科管理症例数 5524症例

特徴：

済生会横浜市東部病院は平成19年3月に開院し、地域に根ざした横浜市の中核病院として、そして済生会の病院として、救命救急センター・集中治療センターなどを中心とした急性期医療および種々の高度専門医療を中心に提供する病院である。また、急性期病院であるとともに、ハード救急も担う精神科、重症心身障害児（者）施設も併設されている。また、「より質の高い医療の提供」に

加え「優秀な医療人材の育成」も重要な使命と考え、研修医、専門医の育成にあたっており、医師、すべての職員が、充実感をもって働くことができる職場環境の整備にも積極的に取り組んでいる。

## 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

研修実施責任者：糟谷周吾

専門研修指導医：

糟谷 周吾	(小児麻酔)
大原 玲子	(産科麻酔)
馬場 千晶	(小児麻酔)
蜷川 純	(小児麻酔)
山下 陽子	(産科麻酔)
古田 真知子	(小児麻酔)
松永 渉	(産科麻酔)
浦中 誠	(小児麻酔)
橋谷 舞	(小児麻酔)
阿部 真友子	(産科麻酔)
伊集院 亜梨紗	(産科麻酔)
阿部 まり子	(小児麻酔)
壺井 薫	(小児麻酔)
永田 沙也	(小児麻酔)
久米 澄子	(産科麻酔)
河村 彰久	(小児麻酔)

認定病院番号 87

麻酔科管理症例数 6245症例

特徴：

- ・国内最大の小児・周産期施設であり、胎児、新生児、小児、産科麻酔（無痛分娩管理を含む）の周術期管理を習得できる。
- ・国内最大の小児集中治療施設を有し、小児救急疾患・重症疾患の麻酔・集中治療管理を習得できる。
- ・小児の肝臓移植、腎移植、小腸移植、心臓移植の周術期管理を習得できる。
- ・小児がんセンター、緩和ケア科があり、小児緩和医療を経験できる。
- ・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制があり研究環境が整っている。

る。

## 国立がん研究センター中央病院

研修実施責任者：佐藤哲文

専門研修指導医：

佐藤哲文	(麻酔, 集中治療)
松三絢弥	(麻酔, 集中治療)
川口洋佑	(麻酔, 集中治療)
大額明子	(麻酔)
大石悠理	(麻酔・集中治療)
日笠友起子	(麻酔, 集中治療)
塩路直弘	(麻酔・集中治療)
浅越佑太郎	(麻酔・集中治療)

専門医：

重松美沙子	(麻酔・集中治療)
榎本有希	(麻酔)
高橋裕明	(麻酔・集中治療)
喜多沙奈	(麻酔)
齊籐裕美	(麻酔)

麻酔科認定病院番号：43

麻酔科管理症例数 5052症例

特徴：がん治療・がん研究の拠点病院で、悪性腫瘍手術全般、特に胸部腹部外科手術の麻酔管理を研修することができる。集中治療の研修も可能である。

## 昭和大学病院

研修実施責任者：大江 克憲

専門研修指導医：

大江克憲	(小児心臓麻酔)
加藤里絵	(産科麻酔・手術麻酔)
小谷透	(集中治療)
米良仁志	(ペインクリニック)
尾頭希代子	(手術麻酔・心臓麻酔)
細川幸希	(産科麻酔・手術麻酔)

小林玲音 (ペインクリニック・手術麻酔)  
大杉枝里子 (産科麻酔・手術麻酔)  
染井將行 (集中治療)

専門医：

五十嵐友美 (集中治療)  
高橋有里恵 (手術麻酔)  
岡崎晴子 (手術麻酔)  
五反田倫子 (産科麻酔・手術麻酔)  
佐々木友美 (手術麻酔)

認定病院番号：33

麻酔科管理症例数 6558症例

特徴：手術症例が豊富で専門医取得に必要な特殊症例が当施設で研修できます。食道手術、肝臓手術、呼吸器外科手術などの麻酔管理を十分に経験でき、心臓血管外科も成人と小児の両方を数多く行っています。手術麻酔に加えてペインクリニック、無痛分娩（産科麻酔）、集中治療、緩和医療などのサブスペシャリティの研修も可能です。多職種による術前外来も開設しており、専門医が習得すべき周術期管理をバランス良く学べます。

#### 埼玉医科大学総合医療センター

研修実施責任者：小山 薫

専門研修指導医：

小山薫 (麻酔, 集中治療)  
照井克生 (麻酔, 産科麻酔)  
小幡英章 (麻酔)  
鈴木俊成 (麻酔, 区域麻酔)  
清水健次 (麻酔, ペインクリニック)  
田村和美 (麻酔, 産科麻酔)  
丸尾俊彦 (ペインクリニック)  
山家陽児 (麻酔, ペインクリニック)  
松田祐典 (麻酔, 産科麻酔)  
加藤崇央 (麻酔, 集中治療)  
成田優子 (麻酔, 産科麻酔)  
田澤和雅 (麻酔)

加藤梓 (麻酔, 産科麻酔)  
佐々木華子 (麻酔)  
北岡良樹 (麻酔)  
金子恒樹 (麻酔, 産科麻酔)  
原口靖比古 (麻酔)  
伊野田絢子 (麻酔, 集中治療)

専門医 :

杉本真由 (麻酔, ペインクリニック)  
高橋綾子 (麻酔)  
金子友美 (麻酔)  
黒川右基 (麻酔, 集中治療)  
黒木将貴 (麻酔)  
岡田啓 (麻酔)  
大久保訓秀 (麻酔)  
野口翔平 (麻酔, 産科麻酔)  
松浦千穂 (麻酔)  
渡辺楓 (麻酔, 産科麻酔)  
遠藤奈穂 (麻酔, 産科麻酔)

認定病院番号 : 390

麻酔科管理症例数 7288症例

特徴 : 県内唯一の総合周産期母子医療センターかつ高度救急救命センターでドクターヘリが設置されている。急性期医療に特化した麻酔管理のみならず, 独立診療体制の産科麻酔, ペイン, 集中治療のローテーションが可能で, 手術室麻酔のみならずオールラウンドな麻酔科医を目指すことができる。

## 榊原記念病院

研修実施責任者 : 清水 淳

専門研修指導医 :

清水淳 (麻酔一般、心臓麻酔)  
古市結富子 (麻酔一般、心臓麻酔、集中医療)  
森啓介 (麻酔一般、心臓麻酔)

認定病院番号 : 1441

麻酔科管理症例数 2542症例

特徴：急性期医療を中心とした、あらゆる年齢層を対象とした循環器疾患の専門施設である。小児先天性心疾患を含む開心術だけでなく、最先端のカテーテル治療の周術期管理を豊富に経験できる。また他科・他職種間の垣根が低く、カンファランスや実地臨床を通じて幅広い知識を得ることができる。地域医療支援病院である。

## 5. 先攻医の採用と問い合わせ先

### ①採用方法

先攻医に応募する場合は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに志望の研修プログラムに応募する。

### ②問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

東邦大学医療センター大森病院麻酔科 担当 岩本 津和

〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1

TEL 03-3762-4151 (代表) /03-3765-8022 (医局)

e-mail [masuikacc@hotmail.com](mailto:masuikacc@hotmail.com)

website <https://www.lab.toho-u.ac.jp/med/omori/pv/anesth/>

## 6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

### ①専門研修で得られる成果 (アウトカム)

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

## ②麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料麻酔科先攻医研修マニュアルに定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

## ③麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料麻酔科先攻医研修マニュアルに定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別な目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院に置いて卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

## 7. 専門研修方法

別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

## 8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

先攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

### 専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

### 専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

### 専門研修 3 年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる。また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する。

### 専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる。

## 9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

### ① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

### ② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修 4 年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

## 10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，

技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

## 11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

## 12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

### ① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

### ② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

### ③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

### 13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての東邦大学医療センター大橋病院，東邦大学医療センター佐倉病院，済生会横浜市東部病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

### 14. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する。

さらに、子供の養育を含めた家庭内の事情、健康上の理由などにより労働に制限がある場合でも、適切に研修が継続できるように個々に研修計画を調整する。